



た発疹が出るウイルス感染症です。発熱と、首や後頭下部のリンパ節の腫れが出て、1～2日遅れて全身にかゆみのない斑状の発疹がでます。三日ばしかと言われるように、三日ほどで熱は下がり、発疹は消退するのでその俗名が付いています。

インフルエンザ程度のダメージですが、まれに脳炎や特発性血小板減少症を起こすこと、妊婦がかかると先天性風疹症候群を引き起こすことが問題です。**先天性風疹症候群**は、妊婦が風疹に感染し、胎児に様々な**奇形**が起こる病気です。特に妊娠初期から中期に多く、11週以前ではほぼ必発、12～16週で約半数に起こり、それ以降はほとんど起こりません。代表的な症状は、難聴、先天性心疾患（動脈管開存、肺動脈狭窄、心室中隔欠損など）、白内障などです。

風疹はウイルスに対する有効な治療法が無いため、自然に治るのを待ちます。MRや風疹単独のワクチンの予防効果は95%以上と言われているので、対象年齢のお子さんや、妊娠可能な女性は必ず接種しておきます。

集団生活に戻るのは**発疹が消えてから**でしょう。

## 2) 麻疹（はしか）

咳やクシャミでうつる、きわめて伝染性の高いウイルス疾患です。子供の感染症としては重症で、脳炎や肺炎で死亡することもあり、古来は子供の“いのち定め”と呼ばれ、恐れられた病気です。

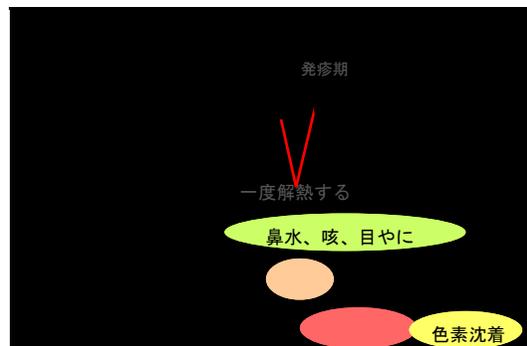
カタル期と呼ばれる、クシャミや咳、鼻水、発熱などの症状の後、**いったん熱は下がったふり**を見せ、発疹のでる**発疹期**に入

ります。この間も高熱が続き、およそ1週間床に伏せることとなります。熱が下がってくると、発疹は黒ずんだ色素沈着になり、回復期に入ります。

このように**インフルエンザに2～3回**続けざまに罹ったような大風邪がはしかなので、中耳炎、肺炎、心筋炎や脳炎、角膜潰瘍など**合併症**だけでも30%の人に起こります。発展途上国では死亡率が2%とも言われ、今でも“いのち定め”です。風疹同様に抗ウイルス剤がないので、自然に治るのを待ちますが、その間脱水の予防に努めたり、合併症を起こしていないかの詳細な観察が必要です。

予防は、MRワクチンなどの予防接種で、2回接種すると99%の人に抗体ができます。また、感染者に接触後、72時間（3日）以内にワクチンを接種すると、発症を防ぐことが可能で、120時間（5日）以内なら、発症しても軽症で終わることが期待できます。

潜伏期間はおよそ2週間なので、どこで感染したかわからないこともあります。学校や会社など集団生活の場で複数の発症者がでることもあります。集団生活に戻るのは、**解熱後3日経って**からです。



生免疫がつくとと言われていましたが、必ずしもそうではなく、大人になってから再度感染することもあります。実際、お孫さんにうつされたという70歳代の患者さんもいました。以前は、麻疹や風疹

## 3. おたふく風邪と水ぼうそう

### 1) おたふく風邪（流行性耳下腺炎）

耳の後下部が腫れて顔がゆがむ、おなじみの病気です。ムンプスウイルスに感染し、2～3週間の潜伏期を経て、熱と耳下腺の腫れがでます。子供の時にかかるとう

と一緒にMMRというワクチンが小児に接種されていましたが、最近はおたふくのムンプスだけ外れ、MRとなったため、お子さんの接種率がめっきり下がり、数年ごとに流行を繰り返しています。特別の治療が無いので、**耳下腺の腫れがひく7～10日間**ほどは人にうつさないよう自宅療養に努めます。

酸っぱい食べ物や、よく噛まなければならない食品は、唾液腺である耳下腺に負担をかけ、痛みを助長するため、あっさりして柔らかい物を食べましょう。熱や、耳下腺の痛みに対してはNSAIDsと呼ばれる消炎鎮痛剤が有効です。

思春期以降の男性がおたふく風邪にかけると、30%ぐらいに、精巣炎を併発し腫れて痛みます。このため、男性不妊の原因になるとされてきましたが、実際にその頻度は多くありません。

### 2) 水ぼうそう（水痘）

水痘帯状ヘルペスウイルスに感染して起こります。水ぶくれにウイルスがいて、ほんのわずかのウイルスが皮膚についただけでも感染し、家族内感染は90%にも及びます。発熱とともに、全身に紅

斑がでます。徐々に水疱となり、熱が下がってから水疱はかさぶたとなっはがれます。この間およそ7日ほどで、**水泡が全てかさぶたになったら人**にうつさないと考えられています。

このウイルスは、見かけ上治ったようでも、脊髄神経の後根神経節、すなわち末梢の感覚神経の中に隠れ住んでいます。そして、体の免疫力が低下したとき、末梢神経に沿って出てくるのが、**帯状疱疹**です。帯状になるのは1本の末梢脊髄神経の分布に一致した発疹が出るためです。免疫力低下は、カゼだけでなく、ガンなどの病気、抗ガン剤や免疫抑制剤などの薬剤が主な原因です。

水痘帯状ヘルペスウイルスには、幸い、バルトレックス、ゾピラックスなどの有効な抗ウイルス剤があります。これらの薬は、口唇ヘルペスを起こす単純ヘルペスウイルスにも有効です。なお、水ぼうそう、帯状疱疹、口唇ヘルペスなど、病気によって使う量、使用日数などが異なります。

### 油断ならない子供の感染症

以下は、保育園や小学校などで流行る子供の病気です。お子さんでは集団発生するので話題になりますが、看病していたお母さんなどがもらってしまうこともよくあります。ほとんどの感染症は子供も大人も共通なので、家庭内で広がらないように気を付けて下さい。

#### 感染性胃腸炎

有名なウイルスは**ロタウイルス**や**ノロウイルス**です。前者は小さなお子さんが保育園などで集団発症するので有名ですが、下着の始末をするご両親がもらってしまう例があとを絶ちません。ウイルスに対する根本治療がないため、整腸剤、下痢止め、吐き気止めを処方するのがほとんどです。最も有効なのは予防です。まずは、手洗いを徹底的にしてください。これに加え、おむつ交換や、汚れ物の洗濯をするときにビニール手袋をしましょう。また、便所まわりやドアのノブなど手を触れるところの消毒も重要です。アルコールは

無効なのでハイターを薄めて使うなど、塩素系の消毒薬が有効です。

#### アデノウイルス

咽頭結膜炎を起こす、夏に多いウイルス感染症です。プール熱とも呼ばれ、セキや接触で感染し、5日ほどの潜伏期を経た後、**高熱**、ノドの痛み、**結膜炎**（白目の充血など）、**扁桃腺**や首のリンパ腺が腫れます。感染力が強いので、手洗いをしっかりと、タオルの共用を避けましょう。消毒は塩素系のハイターが有効です。上記の**症状が消失し、2日経ってから社会復帰**しましょう。

#### 手足口病

高熱と手のひらなどの小水疱、口内炎が特徴の感染症です。エンテロウイルスやコクサッキーなどのウイルスに感染し、3～5日の潜伏期の後、上記の症状が出現します。有効な薬が無いので、必要に応じて、NSAIDs（熱冷まし）を使いながら自然に治るのを待ちます。